

巻頭言

北海道算数数学教育会

高等学校部会長 成 田 雅 昭

(北海道札幌東陵高等学校長)

平成23年度の北海道高等学校数学コンテストは、1月10日(火)に札幌南高校をはじめ全道各地の高校を会場にして実施され、高校生196名、中学生4名の計200名の生徒の皆さんが参加しました。今回は記念すべき30回を迎えることができ、これまで協賛いただいた方々や問題作成・採点・運営などに関わった方々をはじめ、改めてこれまで本コンテストを支えていただいた多くの方々、そして何より問題に果敢にチャレンジした主役である多くの生徒の皆さんの数学への熱い情熱とひたむきな努力に敬意を表します。

第1回のコンテストは昭和58年(1983年)1月15日に実施されました。当時は高校進学者が急増するとともに校内暴力や中途退学が大きな課題となる中、落ちこぼれのない教育・分かる授業が強調された時代でもあり、また、学力向上について十分には取り組みづらい教育環境にありました。そうした時代にあつて、北海道から数学の分野で優秀な生徒を励まし育て全国レベルで活躍する人材を育成することにより、北海道・日本が発展することを願いの一つとして本数学コンテストがスタートしたことは、北海道高等学校教育の歴史に残る大きな財産となったものと考えています。

21世紀は新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動基盤となる「知識基盤社会」の時代といわれており、PISA調査などから思考力・判断力・表現力等を問う読解力や数学を活用する力の不足、学習意欲の課題、自分への自信の欠如や将来の不安、体力の低下などが指摘されています。本数学コンテストは、暗記力や計算するスピードを競うのではなく、問題にじっくりと向き合い、自分なりの考えを巡らし、数学の世界を若い瑞々しい感性で切り拓き、数学を楽しむ機会となっています。数学はあらゆる学問の基本であり世界共通の科学言語・哲学です。また、日常のあらゆる場面で身近なところで数学の知恵が活用されています。今回参加された生徒の皆さんが今後とも数学を楽しみ、世界観を広げ、心豊かに学び、将来様々な分野で活躍することを祈っております。

最後になりましたが、本コンテストの実施に当たり、ご後援いただきました北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道高等学校長協会、北海道新聞社の皆様、並びにご協賛いただきました東海大学の秋山仁教授をはじめ、東京書籍、北海道電力、北海道情報大学、予備校クラブユニック、IMS数学英語ゼミ、現役予備校TANJIの皆様にも、厚くお礼を申し上げます。